

事業内容:防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業
学校防災アドバイザー活用事業の実施

題 名:実践的防災教育総合支援事業実(命の大切さを考える防災教育公開事業)
(帰宅困難・引き渡し)

— 自助、共助の心を育てる取り組み —

所属・電話番号:千葉県立千葉聾学校・043-291-1371

校長 平野 恵子

1 実施事業		○緊急地震速報対応避難訓練	職員・児童生徒									
(1) 防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業の実施	5月	○全校引き渡し訓練	職員・生徒・保護者									
(2) 学校防災アドバイザー活用事業の実施	6月	○修学旅行 (旅行先での避難誘導表示調査)	生徒									
2 事業概要	7月	○不審者対応訓練 ○防災教育公開事業 ・第1回担当者連絡会議 ・防災教育講演会 ・地域と寄宿舎との防災訓練	職員・生徒 職員・児童生徒・関係機関、地域住民あしなが育英会理事									
(1) 本校の特性を踏まえての防災訓練の実施	8月	○宿泊避難訓練 (帰宅困難想定)	職員・生徒									
① 地域住民との合同防災訓練の実施し、共助の関係を築く。	9月	○防災教育研修会 ○防災教育公開授業 ・第2回担当者連絡会議 ・近隣大学及び地域住民との防災訓練 ・防災体験活動	職員、千葉科学大学 職員、児童生徒、関係機関、地域住民等									
② 帰宅困難時の宿泊避難訓練の実施し、様々な困難や不便さを知る。	10月	○遠足の実地調査	職員									
(2) 学校防災アドバイザーによる防災講演会や研修会の実施	11月	○不審者対応訓練(舎) ○マラソン、駅伝に係る安全確認	職員、舎生 職員 職員									
① 講演会で講師より被災地と被災者の現状を伺い、自助、共助の意識を高める。	3 実施概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="188 1843 263 1888">実施時期</th> <th data-bbox="263 1843 587 1888">計画事項</th> <th data-bbox="587 1843 786 1888">参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="188 1899 263 1933">4月</td> <td data-bbox="263 1899 587 1933">○救急法研修会</td> <td data-bbox="587 1899 786 1933">職員</td> </tr> <tr> <td data-bbox="188 1944 263 2027"></td> <td data-bbox="263 1944 587 2027">○危機管理マニュアル・組織図の作成</td> <td data-bbox="587 1944 786 2027">職員</td> </tr> </tbody> </table>	実施時期	計画事項	参加者	4月	○救急法研修会	職員		○危機管理マニュアル・組織図の作成	職員	
実施時期	計画事項	参加者										
4月	○救急法研修会	職員										
	○危機管理マニュアル・組織図の作成	職員										

12月	防災訓練の実施(舎)	職員、舎生
-----	------------	-------

4 担当者連絡会議

	氏名	所属及び役職
1	吉井 典之	千葉県教育庁教育振興部学校安全保健課 指導主事
2	小林 洋孝	千葉市総務局防災対策課 啓発・訓練班 主査
3	田中 剛志	千葉市総務局危機管理課 管理班主査
4	藤崎 優	千葉市保健福祉局高齢障害部障害企画課 管理班主査
5	高金 進	千葉市緑区鎌取町町内会長
6	時田 豊	501地区民生委員児童委員協議会会長
7	大竹 晴道	千葉県立千葉聾学校 PTA会長
8	平野 恵子	千葉県立千葉聾学校 校長
9	大野 一美	千葉県立千葉聾学校 副校長
10	遠藤 和弘	千葉県立千葉聾学校 教頭
11	河野 隆弘	千葉県立千葉聾学校 教務主任
12	目時 修	千葉県立千葉聾学校 高等部主事
13	松野 克洋	千葉県立千葉聾学校 防災安全指導主任
14	窪田 修平	千葉県立千葉聾学校 実践的防災教育総合支援事業担当

15	湯澤 直人	千葉県立千葉聾学校 実践的防災教育総合支援事業担当
----	-------	---------------------------

5 具体的な取組

1 救急法研修会の実施

日本赤十字社千葉支部の協力で全職員がAED・心肺蘇生、人工呼吸の練習を行った。



2 緊急地震速報対応避難訓練

緊急地震速報が発令された場合を想定した避難訓練を行った。訓練では放送だけではなく、教室の非常灯、文字放送を使って異常を知らせた。放送と文字放送の両方で正確な災害状況を伝え、冷静に避難させた。



3 引き渡し訓練

運動会の昼休みを使い、引き渡し訓練を行った。運動場での引き渡しのため確実な情報提供が要求されていた。学部、学年、クラスを示した大きなカードを準備し、目視だけで素早い行動がとれるように配慮しながら実施した。



4 不審者対応訓練

千葉緑警察署の方に不審者役を依頼し実践に即した訓練を実施した。犯人の侵入に対しては新年度初めに不審者の侵入と場所を示す特別な内容の放送を職員に周知させていた。放送を聞いた職員が現場に駆けつけ、さすまたを使い犯人を抑え込み、警察に通報するところまで実践した。



5 防災教育公開授業

・幼稚部

紙芝居等を使い地震や火災に関する言葉の概念について理解を深めた。また、防災訓練や避難の劇化をしながら「火事・地震・停電」などの言葉を覚えられるようにしたり、災害時の約束を理解できるようにしたりした。さらに、災害の恐ろしさや防災の大切さについての知識を広げることができるように防火服の着用などの実体験を実施した。



・小学部

「自助」の意識を芽生えさせるために「じしんだ！からだをまもろう」というテーマで学習を行った。スライドや学習ノートを使いながらクイズ形式で学習を進め、児童たちが意欲的に地震についての理解を深めた。また、地震時、近くに体を守るものがない場合に体を守る方法として「だんごむしのポーズ」を指導した。写真や絵、スライドなどの視覚教材を活用し関心を高めた。高学年の児童は生活の場にどのような危険な場所があるか、逆に災害時に支えとなる避難場所の施設が何処にあるのかを知るための学習を行った。「危険だ！マップ」作りは授業だけでなく、夏休みの課題とし、保護者にも協力してもらい親子で登下校時の避難場所と危険場所を知ってもらった。



・中学部

「いのちを守るために今、私たちにできる備え」をテーマに調べ学習を行った。グループに分かれ防災対策や設備、災害時の情報収

集方法等について調べた。調べるだけでなく、調べた内容を下学年の生徒にクイズ形式で発問し防災に関する知識と関心を学部全体で高めた。



・高等部

産業技術科では、安心・安全、災害時や緊急時に必要な物品を収納できるラック作りを行った。緊急時に必要な物を考えさせながら、避難の際にすぐに取り出せるよう工夫しながら製作を行うことができた。



・専攻科

専攻科では、災害時の情報入手方法について学習した。避難指示情報が命を守る重要なツールと位置付け、災害時、音声以外で情報を提供している提供先や内容、情報の入手方法等に関する事柄を調べ収集し、概要をまとめた。



・支援部

通級指導教室では児童生徒が本校の立地条件や避難場所等の環境を理解するために、自宅から本校周辺までの安全マップを作成した。乳幼児期支援ぱんだルームでは、2歳児クラスの乳幼児の保護者と共に防災ずきんのかぶり方の実演や消防車両の見学を行い、興味を持つことができた。



7 防災教育講演会

学校防災アドバイザー あしなが育英会
常勤理事 東北事務所長 林田 吉司
演題 「遺児の現状と心のケア」

～あの時を忘れない～

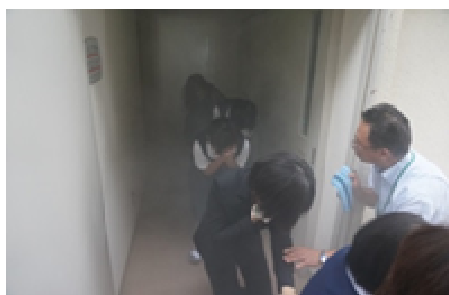
東日本大震災の体験を忘れずに常に危機管理を持つことを目的に講演会を実施した。被災地の小学生の遺児が書いた絵や作文を見せていただきながら家族や友人を亡くした悲しみや、悩み等、遺児の心の叫び声を聞かせていただき、改めて防災を考えることができた。



8 地域住民と寄宿舎との避難訓練

寄宿舎内で発煙筒を焚き、舎の廊下を煙で充満させ視界があまり効かない状態で避難訓練を行った。実際に煙が上に上がることや視界が0となった時、コミュニケーション手段を絶たれることを体験できた。また、地域の方々に参加していただき、校内や寄宿舎内の

構造を知っていただいた。



9 宿泊避難訓練

寄宿舎の児童生徒と中高生以上の希望者を対象に帰宅困難を想定した宿泊避難訓練を実施した。非常食を作ったり、簡易トイレを作ったり、狭くて暑い場所で集団で宿泊したりした。プライベートのなさや暑さ虫の多さ等避難所生活の方々の気持ちを理解した。



10 防災教育研修会

学校防災アドバイザー 千葉科学大学危機管理学部 教授 木村 栄宏
演題「災害時に教職員が取るべき行動や危機管理の技術、心理について」

職員を対象に「災害時に教職員が取るべき行動や危機管理の技術、心理について」をテーマに防災研修を行った。



学校で使えるリスクマネジメントの基礎知識として「ハインリッヒの法則」や「スイスチーズモデル」等で事故が起こる確率や抜け穴についてお教えいただき事故を未然に防ぐための方法を知ることができた。

11 第2回担当者連絡会議

関係機関の方や地域住民の方、消防署の方、関係機関の方々に本校の防災訓練及び防災体験を参観していただき、アドバイスをいただいた。また、近隣の緑消防署の方から地域の特性や防災に対する意識づけの方法等のお話を聞くことができた。教室と移動教室の防災設備の差や体育館の運動場、教室でのアナウンスの聞こえ方等、多くの意見やアドバイスをいただけた。



12 近隣大学と地域住民との防災訓練及び防災体験

・避難訓練

地震から火災が発生した状況を想定した避難訓練を行った。火災場所の放送を聞いた職員が適切な避難経路を判断し、児童生徒を安全に避難させた。

・防災体験活動

防災に興味・関心を持たせることを目的に様々な種類の防災体験を行った。幼稚部は、消防車の車両見学や乗車体験、小学部は防火服着用体験、はしご車乗車体験、中学部は煙体験や放水体験、高等部は起震車体験を行った。その後、高等部は避難場所でプライベート

トを確保するための間仕切りスペース作りを行った。この取組で災害や防災に対する興味・関心や知識・技術が大きく向上した。



6 成果と今後の課題

成果

- ・担当者連絡会議を実施したことで千葉市危機管理課や障害福祉課、緑消防署等の関係機関と公助の関係が確立された。
- ・合同防災訓練を実施し、地域住民の方々を本校に招くことができた。本校の概要や防災への考えや意識、児童生徒の実態、寄宿舎の存在等を知っていただく良い機会となった。
- ・幼児児童生徒については、災害や地震、不審者等に対応した防災訓練を通して、スムーズな避難ができるようになった。
- ・はしご車の乗車体験や防火服着用体験等、また、簡易トイレや間仕切りスペースを作成したことで、防災についての知識や技術、興味を向上させることができた。
- ・帰宅困難を想定した宿泊避難訓練では、帰宅困難となった場合、暑い、狭い、することがない等の快適とはいえない生活があることを実感し心構えを養うことができた。
- ・今回の事業をきっかけに自助の意識や態度を身に付けることができた。

課題

- ・地域住民の方々との交流を深めるための手段を防災訓練だけでなく他の行事に盛り込み、互いに顔の見える関係づくり「共助」の関係を築いていく必要がある。

- ・最新の防災グッズや情報に耳を傾け、聴覚障害に適した最新の避難方法や情報を引き続きつかんでいく必要がある。
- ・情報を得る手段についての知識や技術は向上したが、伝える手段や意欲についての課題が残った。災害時や避難場所等で自分の障害を積極的に伝え、援助を受けられるようになる必要がある。
- ・この事業を通して、自助の意識は高まった。さらに、聴覚障害だからできないことと、聴覚障害者でもできることを明確にし、共助、公助の意識や態度を身に付けられるような支援を行う必要がある。